

親子で楽しむ町内の文化財 ～ パートⅢ ～

「歴史の宝宝箱」播磨町。身近なところに、地域の人びとが大切に受け継いできた貴重な文化財があります。

【問い合わせ】郷土資料館 ☎079(435)5000



播磨町マスコットキャラクター いせきくん、やよいちゃん

2 蓮花寺の礼盤

今回は蓮花寺の礼盤を紹介します。

【クイズ】

礼盤といわれる四角箱は、何に使われるものでしょう。

- ① お坊さんが座る台
- ② お供えものを置く台
- ③ 生け花を置く台



▲400年間秘密が守られました



蓮花寺の礼盤には、興味深い落書きがなされています。礼盤とは、お坊さんが仏さまに向かってお経を読むとき座る台です。ちょうど座布団と同じくらいの広さで、高さは20センチほどの箱をひっくり返して座れるようにしたものです。

さて、その普段は見えない礼盤の内側に、なにか字が書かれているのを、播磨町の郷土史家が以前発見しました。そしてよく読むと「慶長十四年（一六〇九年）のできごととして、姫路藩の藩主・池田輝政の奥方・督姫（徳川家康の娘）が仕立てた、姫路から駿府（静岡県）までの里帰りの行列を「前代未聞アルマジキ」すなわち「とんでもないことだ」と記録していました。はたして督姫の里帰りにあたり、徳川家の娘にふさわしいどのような行列だったのか気になります。しかし、その思いを落書きのように書き残すには、たとえ人目にはつかないとは言え、それなりの勇気が必要なことと思います。

当時、お寺といえば藩の出先機関で、今で言えば、支所の役割をしていました。人の出入りが多い中、果たして何かの拍子に礼盤が裏返されて、見つけられそうになったこともあったでしょう。過ぎたこととはいえ、いろいろ思います。

その後、ちょうど今年で四〇〇年目となります。この間の変化をそのときのお坊さんなりのように言われるのでしょうか。「アルマジキ」と思わず言いたくなることが多いのではないのでしょうか。昔も今も同じだとほやくかもしれませんね。

なお、この礼盤の拝観にあたっては、事前連絡が必要です。

（郷土資料館 館長 田井恭一）

■ クイズの答 ①お坊さんが座る台

町の人口 4月1日現在

（住民基本台帳人口+外国籍人口）
 34,272人（-11人） 男…16,853人（+11人） 世帯数…13,435（+20）
 女…17,419人（-22人）

